

「税の標語」「税についての作文」

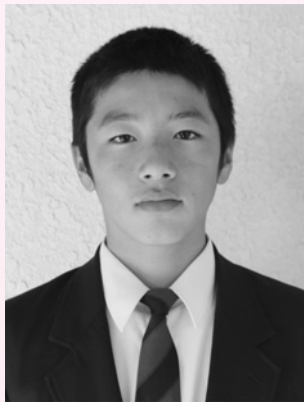
佐原税務署長賞

神崎中2年 武田匠史

香取地区教育委員会連絡協議会 会長賞

神崎中3年 加藤梓

全国納税貯蓄組合連合会並びに国税庁が主催した中学生の「税の標語」、「税についての作文」。本町から作品を応募した神崎中学校2年の武田匠史くんが標語で佐原税務署長賞、作文で3年の加藤梓さんの作品が香取地区教育委員会連絡協議会会長賞に、石橋翼さんの作品が佐原税務署管内納税貯蓄組合連合会佳作に入賞しました。武田くんと加藤さんの作品を紹介します。



武田匠史くん



加藤梓さん

【標語】税金で みんな笑顔の 国づくり

神崎町立神崎中学校二年 武田匠史

【作文】私たちの幸せを築く税金

神崎町立神崎中学校三年 加藤梓

「ねえ、お父さん、税ってわかりやすくいうとどういうものなの？」私は税について疑問に思い、父に聞きました。

「うーん、詳しく説明すると難しいけど、例えば梓たちが普段使っている教科書は皆が払っている税金で配られているんだよ。」と教えてくれました。私は税のことについて詳しく知りたいと思い、調べてみました。すると、『税は健康で豊かな生活をするための財源』と書かれていました。

実際、自分の身の回りで税が使われているものはないかと考えてみました。最近、中学校の前に横断歩道ができました。そのおかげで、事故なく安心して登下校ができるようになりました。この身を守ってくれる横断歩道も、町からの税金の支えがあつてつくられたものです。

他にも私たちが税に支えられているものはたくさんあります。私が住んでいる神崎町の小中学生の給食費の半分は、税金で補われています。さらに、私はバレーボール部に所属していましたが、練習で使っていた体育館は、小規模校のわりには、とても立派な施設です。また、ボールや練習用具等も充実していたため、しつかり練習することができました。

このように、身の回りで多くの税金が使われているということを再確認できました。

また、国からの税金は何を支えているのだろうと思い、調べてみました。介護や生活保護関係の経費に、一番多く使われていました。今後ますます高齢化社会が進むので、税の果たす役割は大きくなると思います。

しかし、皆が本当に税金が良いものだと思っているとは、限りません。

最近では、消費税の増税についてのニュースが取り上げられることがあります。五パーセントから八パーセントに、そして十パーセントまで上がることも予定されています。私たち中学生の中にも買い物のときに負担が増えるので、マイナスのイメージをもつ人が多いかもしれません。

でも、私は自分たちが税金を納めることで、これからの社会全体が幸せなものに築けていけるのだと思います。なぜなら、私たちが納めた税金は人々の幸せとなって返ってくるからです。今回の学習を通して私は社会人になってからは、しつかり税を納めようと決意しました。私たちが生活していくうえで、税金はとても貴重な存在であつて、自分たちの未来を幸せにするために欠かせないものであることを実感したからです。